

## 5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (東海)	良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・客単価が上昇している。
	やや良く なっている	一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	販売量の動き	・高額商品が動き出し、景気が好転する兆しがある。
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・消費税増税の影響は多少あるものの、来客数はほぼ前年どおりで推移している。客の様子は、ゴールデンウィーク期間には例年よりも慎重さが見受けられたが、今月後半には増税の事を忘れてしまったかのような様子。
		百貨店（経営企画担当）	お客様の様子	・夏らしい気温になったこともあり、衣料品は好調に推移しており、前月大きく落ち込んだ高額品も回復は早く、客の購買意欲もかなり持ち直している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前年と比較して売上高は大幅に伸びている。客1人当たりの平均買上点数が前年比で1点増加しており、客の財布のひもが少し緩んでいる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・売上と来客数をみると、来客数は前年と変わらないが売上が伸びている。1人当たりの購買量が確実に増えている。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・今月は予想以上に天候に恵まれたおかげで、客足は順調に推移している。夏を思わせる気温のおかげでスイカなど高額商品が好調で、売上増加に貢献している。
		スーパー（営業企画）	お客様の様子	・消費マインドの消費税増税後の冷え込みは想定したほどではなく、回復も予想以上に早い。来客数はまだ前年割れをしているが、買上単価は前年を上回っており売上も回復してきている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・4月に比べると若干ではあるが来客数が戻り、商品の販売量も戻りつつある。しかし、まだ前年を下回る状況が続いている。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・販売量も来客数も全体的には動いている。消費税増税に伴って悪くなるかと思っただが、3か月前と比べても決して悪くはなく、客には購買意欲があるよううかがえる。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	来客数の動き	・トラベルキャリーケースの動きが伸張している。大手自動車メーカーの業況回復に併せて、海外向けの出張用品の動きが良い。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税による落ち込みから徐々に売上が戻ってきている。取扱件数をみても例年並みに団体旅行の申込がある。税率引上げに伴う旅行代金の上昇にも見慣れてきた感があり、客もそれほど抵抗なく申込をする。全体的にみると取扱額、利益とも上向きである。
		ゴルフ場（企画担当）	来客数の動き	・5月の来場者数は予算をクリアしているが、前年同月と比べると少し減少している。売上は、予算比・前年比とも下回っているが、2、3月頃よりは少し良い方向に向かっている。
	変わらない		商店街（代表者）	販売量の動き
		一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・母の日の売上は前年よりやや落ちたものの、全体としてはまずまずであり、消費税の増税も、仕方がないと言いながらも納得して払う客が多い。しかし無駄な物は買わず、財布のひもは固くなっている。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	お客様の様子	・消費税増税後、小売店では外税表示が多くなり今までの内税の時よりも表示単価が安くなっているため、客はあまり値上げになっていないと感じていないように思われる。我々の取り扱い商品である薬剤などは生活必需品のため、3か月前と比べて良くも悪くもなっていない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークを境として参拝客は前々年の水準に近くなっており、遷宮特需は終わったものとみている。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・5月の売上は消費税増税直後の4月に比べれば回復している。好景気で調子の良い客とまったく調子の良くない客に客が二分化しており、両者の平均として売上は増税前と大きくは変わらない状況となっている。

百貨店（経理担当）	販売量の動き	・売上はほぼ前年並みで推移しており、消費税増税の影響は薄まってきている感がある。ただし、貴金属等の高額な雑貨品については、増税の影響が長引きそうである。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・消費税増税の影響がまだ続いているためか、一般客の消費にはまだ元気がなく景気が良くなっているとは言えない。生活必需品、食品や日用雑貨では購買意欲が戻りつつあるが、衣料品や耐久消費財はまだまだ戻っていない。近くの地方百貨店をみても、以前と比べると客の入りが少なく買物の様子も積極的なものではない。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・消費者は、小規模な小売店においても、安い物を選別して買い回るため、客単価の低下が続いている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・売上は前年を下回っている。特に買上点数が改善しない。生鮮食品は前年並みであるが、消費税増税前に買い置きしている日持ちのする食品について低迷している。
スーパー（販売促進担当）	お客様の様子	・消費税増税後の買い控えのためか、今月も全体的に売上は低調となっている。衣料品は前年比94%、生活用品は前年比89%、食料品は前年比86%となっている。本来ならば、食料品が全体の数値をけん引するところであるが、競合先のスーパーマーケット等との低価格競争に入っているため客は分散化し、集客が厳しい。
スーパー（支店長）	お客様の様子	・消費税増税の影響が続き、現状と変わらない状態が続く。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・客単価は、消費税増税前の駆け込み需要で3月には前月比3.5%アップし、4月は6%ダウンとなったが、5月入って3%程度上昇し、駆け込み需要が発生した3月よりも前の実績に戻っている。来客数も同様な傾向となっている。
コンビニ（エリア担当）	それ以外	・各店舗の売上は、前年を下回っている状態が継続している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が回復しない。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響がしばらくは続くと思込んでいたが、主力商品の販売量が戻ってきており、思っていたより早く回復している印象である。
コンビニ（店長）	お客様の様子	・アベノミクスの効果で景気が良くなっていると言われてはいる割には、客は単価の低い商品しか購入しない。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・連休明けに外出して買物する人が多くみられる。特に女性は外出の機会が増えないと出費をしない。
衣料品専門店 〔紳士服洋品〕 （売場担当）	単価の動き	・今月も消費税増税後の反動減が引き続きあるかと思ったが、想定していた程の落ち込みはみられない。消費税増税前の駆け込み需要のあった3月に比べると確かに落ち込みは否めないが、4月に落ち込んだというよりも、現在が3か月前の通常の状態に戻ったと捉える方が適切である。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要での混雑を避けた客が、暑くなって混雑する前にエアコンを購入する動きがあり売行きが好調である。消費税増税後の反動減をカバーしている。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・販売量の問題はあるが、販売単価を上げれば来客数は減少し、単価を下げれば来客数が増加する。消費税増税後の消費者は非常にシビアであり、必要な物を選択して買うという状態である。この傾向が定着するのではないかと感じる。
乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・販売量は下がっているが、来客数は増加しているため、景気が上向きか下向きかの判断に悩む。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税のため4月が悪かったのは仕方がないが、ゴールデンウィークが明けても一向に回復の傾向がみられない。
住関連専門店（営業担当）	販売量の動き	・新築持ち家住宅の需要が回復しない。一方で官公庁工事、民間設備工事、リフォーム工事などは、消費税増税後も多数の現場が動いており、職人が間に合わない状態であるとともに資材の値上がりが続いている。
その他専門店 〔貴金属〕（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み消費の反動減が続いている。

その他小売 [ショッピング センター] (営 業担当)	販売量の動き	・消費増税の影響で、売上回復はまだまだ厳しい状況である。	
高級レストラン (役員)	来客数の動き	・消費増税前の駆け込み需要がなかった代わりに、4月以降も足元まで反動減がなく推移している。来客数は、ほぼ前年並みで推移している。	
観光型ホテル (販売担当)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク企画の集客が大幅に予定を下回った事もあり宴会の売上が伸びていない。全体で見れば宿泊部門の好調さに助けられ、3か月前と変わらず前年をわずかに下回るとい状況である。	
都市型ホテル (支配人)	来客数の動き	・季節要因もあって宿泊需要は弱い時期であるが、宴会需要は問い合わせが若干増加しそうな気配をみせている。	
旅行代理店 (経 営者)	販売量の動き	・消費増税から2か月が経とうとしているが、景気は変わらない。	
旅行代理店 (経 営者)	競争相手の様子	・客の低単価志向は変わらず、他社も苦戦しているようである。旅行業は儲からないものと割り切るところや、廃業する業者もある。ネット予約などITの普及が仕事を奪っているだけでなく、少子化あるいは高齢化の影響も顕在化しつつある。	
旅行代理店 (経 営者)	お客様の様子	・夏休みの問い合わせは多数あるが、家族旅行の総費用は前年並みの様子である。国内旅行は消費増税で価格が上昇しており、特典付や早割適用コースが人気である。海外旅行は子供半額のコース等があるが、あまり動きは変わらない。	
旅行代理店 (従 業員)	来客数の動き	・来客数はゴールデンウィーク過ぎには減少したが、今月後半になって増加してきている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・繁華街へ飲食に来る人が少ない。2～3か月前から変わらず人出が少ない。	
タクシー運転手	お客様の様子	・今月は第1～2週がゴールデンウィークであったこともあり低調であったが、第3週からは通常に戻り、全体的には4月よりも良くなっている。特に金曜日の夜は客足も戻り、にぎわいもあって良くなっている。	
通信会社 (営業 担当)	お客様の様子	・例年の繁忙期である3、4月が終わって5月になっても販売数には変化がなく、忙しい状態が続いている。	
観光名所 (案内 係)	お客様の様子	・客は金を使う事をためらっているように感じる。人出だけは多くなっているが、観光スポットではいずこも支出金額が少なくなっている。	
美容室 (経営 者)	お客様の様子	・客の様子をみると無駄遣いはしないものの、必要な時にはそれなりの支出をしている。	
美顔美容室 (経 営者)	販売量の動き	・消費増税前には駆け込み需要がみられたが、今はまた駆け込み需要の前の状態に戻りつつある。	
美容室 (経営 者)	お客様の様子	・客が高齢化して病院に入る傾向があり、また、若い客層の来店が少なく徐々に悪くなっている。	
設計事務所 (職 員)	お客様の様子	・消費増税が実施され、それまでのように改築時に洗濯機やテーブル、ソファなどを買換えるといった勢いがなくなっている。今ある物を大事に使う事は良い事であるが、金の動きという点では影響がある。消費税率は3%の引上げであるが外税表示と内税表示の両方が可能となり、5%税込の価格がそのまま本体価格となって8%アップという話もある。	
設計事務所 (職 員)	お客様の様子	・客からは特に景気の良い話は聞かない。むしろ一時的に落ち込んでいるという話が多い。	
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・消費増税の駆け込み需要で一時は受注が増加したが、今は横ばい状態である。	
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・消費増税後はリフォーム等への出費を控える客が多いと思っていたが、意外と変わらない状況である。	
その他住宅 [不 動産賃貸及び売 買] (経営者)	お客様の様子	・賃貸物件も売買物件も交渉に時間がかかる客が多い。	
やや悪く なっている	商店街 (代表 者)	それ以外	・運送費の値上げや燃料費の高騰により収益が圧迫され、物の動きが全体的に鈍い感じがする。大口得意先からの注文も減っており、景気が再び悪い方向へ進み始めている感がある。
	商店街 (代表 者)	単価の動き	・売価が1,000円以下の商品の売行きは前年並であるが、1,500円を超える商品の売行きが極端に低下している。一方で、食べ歩きができる200円以下の持ち帰り商品は好調である。

一般小売店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・数か月前から原材料が値上がりしており、4月からは消費税が増税となっているが、5月の売上高ではそれらを十分に吸収できていない。客の買い方が厳しいものになっていると感じている。
一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・遷宮が終わり、参拝客も少しずつ落ち着いてきている。しかし、前々年と比べれば、まだまだ高い水準である。
一般小売店〔自然食品〕（経営者）	販売量の動き	・消費税増税の影響で4月の売上は前年より2割ほど落ちたが、5月も前年並みに戻っていない状況が続いている。
一般小売店〔酒類〕（経営者）	来客数の動き	・飲食店への客足が依然として悪い。客がゼロあるいはほとんどゼロの日が多く、しかも多くの店でそのような状況である。
百貨店（売場主任）	単価の動き	・客の動きは変わらず土日の来客数も多い。しかし、カジュアルな靴は売れているが、インポートブランドの高級な靴が売れず売上はあまり伸びていない。予算は達成できていない状況である。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・想定範囲内ではあるが、消費税増税後の反動減が響いている。特に流行に左右される婦人服の動きが悪い。
百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数、客単価ともにダウンしている。
百貨店（販売担当）	単価の動き	・高額品の時計・宝飾品の動きが弱く、食品やファッション用品が中心になっているため全体の商品単価は落ちている。ただし、高額品を除いた商品単価はむしろ上昇傾向にある。単価アップの理由は、消費税増税前の価格上昇と増税を機に、消費者は価値ある物を吟味して購買しようという意識が高まっているためとみている。
百貨店（営業企画担当）	単価の動き	・消費税増税後、高額商品を中心に苦戦が続き、客単価が大幅に落ち込んでいる。5月に入って回復傾向が若干みられるものの、まだまだ本格的な回復にはほど遠い。
スーパー（店長）	単価の動き	・客単価が上がっているようにみえるが、実際には1品あたり単価が上がっているため買上点数は伸びていない。買上点数が伸びていないことから決して良い状況であるとは言えない。
スーパー（店員）	来客数の動き	・全体的に2割近く来客数が減少している。
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・今月20日までの売上は、全体で前年より3.8%減少している。
スーパー（販売担当）	販売量の動き	・来客数の少ない日が多く、それに輪をかけて販売量も少ない日がある。
コンビニ（企画担当）	販売量の動き	・たばこ等の消費税増税前のまとめ買いの反動で買上点数が減少している。元に戻るかどうか不安がある。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・1日あたり来客数は前月比で20~30人くらい減少し、月を追うごとに減り続けている。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・消費税増税後の売上の落ち込みは、5月に入って大分落ち着いてきたが、まだ前年を幾分下回る状況である。
衣料品専門店（販売企画担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響のためか、急激に売上が落ちてきている。
乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・来客数が減少しており、ガソリン価格の高騰や消費税増税が理由として考えられる。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月の販売台数も前年割れしている。表向きの数字上は自社登録などで何とかしているが、実際の販売台数はかなり厳しい状況である。ただ、新型車種の投入などが今後予定されているので、厳しい見通しながらも期待は持てる。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数は減少しており、それに伴い販売台数も伸び悩んでいる。目標の80%前後で推移している。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税後の反動により、受注は前年比10%減の水準で推移している。想定内の減少幅ではあるが、店頭では活気に乏しく、商談に要する時間も延び気味になっている。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要に対する反動減は予想以上に少ない。直近では前年比90%の受注量にまで回復している。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数は3か月前と比べて幾分減少している。

		スナック（経営者）	来客数の動き	・例年5月はゴールデンウィークがあってレジャー費に支出が多く回るため悪い月ではあるが、消費税増税の影響もあり、例年よりも1割ほど売上が減少している。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの影響で、弁当需要がかなり少なくなっている。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・3か月前は、アベノミクスの効果と消費税増税前の駆け込み需要で前年比12～13%も宿泊者数が多かったため、その勢いが止まってきている分、やや悪いという判断ではあるが、前年に比べるとまだ5%くらい上回っているため、悪くなっているという状況ではない。
		都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・現在の客の様子には消費税増税の影響が見受けられるが、予約状況からみると景気動向にまで影響する事はないように感じる。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税後は受注が減少している。既にこの時期は夏の旅行の取り込む時期に入っているが、受注が伸びない。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・これまでと同様に新規加入者数が落ち込んでいるが、特に新築住宅の完成物件での加入者が激減している。
		通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・3か月前に比べて新規申込が減少し、他社へ乗り換えのため廃止の注文が増加している。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・販売量の減少により、設備増設の需要が減少傾向にある。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・入館者数は微減を続けており、景気感はやや悪くなっているように感じる。
		パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きや単価の動きがやや悪くなっている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・都心部と違って、地方では景気がまだまだ良くない。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	販売量の動き	・消費税増税の影響で、買い控えが続いている。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	競争相手の様子	・行政からの発注件数が前年に比べて減少し、落札額も下がっている。仕事を求めている企業が増えており、景気が回復しているとは感じない。
	悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・高額品や耐久消費財では消費税増税による反動減が著しい。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	販売量の動き	・小売業では消費税増税の影響が非常に大きい。
		百貨店（経理担当）	単価の動き	・消費税増税前の駆け込み需要がピークに近い2月との比較では、販売量に大きな差がある。また、購買単価の下落が顕著である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・来客数は少なく、客の反応も鈍い。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売台数は、消費税増税前の駆け込みの反動減からまだ戻っていない。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	販売量の動き	・消費税増税前の買い置きが多かったため、今はまだ買い控えが続いている。
		理容室（経営者）	お客様の様子	・関係者との会合でも、景気の良い話は出ない。相変わらず安い店に客は流れている。
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・同業他社も同様であるが、広告を出しても客がほとんど来ない状況である。
企業動向関連 (東海)	良くなっている やや良くなっている	—	—	—
		食料品製造業（経営企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・消費税増税後、生活用品等でも価格転嫁が顕著であるが、比較的抵抗がなく受け入れられている。その一方で消費者の商品を選択する目は一層厳しくなっている。
		化学工業（総務秘書）	それ以外	・会社で資産購入や修繕を発注している業者は全般的に多忙な印象である。対応が難しいほど仕事が溢れているようで、見積提示も強気である。こちらから依頼しないと前に進まない状況であり、このようなやり取りから潤滑な経済を感じる。
		一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・中国大手EMS（電子機器受託製造サービス）からの大型受注が決まり、受注金額は、前月から今月にかけて前年よりも良い状況が続いている。

	電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・製品輸出はモデルごとの好不調の差があるものの、全体としては堅調に推移している。国内売上についても消費税増税の影響はあまりなく、想定範囲に収まっている。	
	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・地域による差はあるが全体として受注量は拡大の方向である。ただし、価格が抑えられているため相変わらず適正な利益を得るには至っていない。	
	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・輸出貨物が増えてきている。輸出部門の受注量は、横ばいから微増である。	
	通信会社（法人営業担当）	それ以外	・企業においては、通信機器の更改やネットワークの更改（光回線化）等といった設備投資に目が向き始めているような動きがみられる。	
	金融業（法人営業担当）	取引先の様子	・取引先の自動車部品メーカーの稼働率は高水準を維持している。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・大手企業を中心に企業の収益は改善傾向にあり、不動産取引も活発になってきている。	
	会計事務所（社会保険労務士）	取引先の様子	・売上、利益ともに右肩上がりになってきているという顧問先が多い。	
変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税により受注量、販売量が減少すると思っていたが、想定よりも影響は少なく、あまり景気は変わらない。	
	化学工業（人事担当）	受注価格や販売価格の動き	・消費税の増税だけでなく販売価格そのものが明らかに上昇している。全体的には販売量が少し落ち込み、結果的に売上金額、利益ともあまり変化がない状況である。昇給が行われているのは、一部の会社のみである。	
	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売量が伸びず頭打ちである。	
	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・仕事の引き合いが増えてきているという実感があり、工場の取り合いが起きるかもしれない。収益面ではステンレスの材料高により間違いなく利益を圧迫する点が心配である。	
	電気機械器具製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格には大きな変化もなく停滞気味である。	
	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子	・消費税増税で景気が若干悪くなると思っていたが、客の様子からはそのような変化はない。プラスではないがマイナスでもないため変わらない。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・マンションや戸建住宅の契約申込は、ともにまずまずの件数で推移している。消費税増税の影響は思ったほどではない。	
	建設業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・一般家庭や業者からの受注量は、消費税増税の関係で前々月から減少が続いている。	
	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・タイ政変の動きは気になるが、今のところ輸出入ともに他の国を含め好調に推移している。国内の輸送量、保管量ともに消費税増税前から勢いを維持している。	
	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・運送単価は上がっているが、個数が減少した状態から戻ってこない。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・自動車部品関係の製造業については、国内向けの部署は通常と変わらない一方で、仕事量の8割が海外向けの部署では増産体制になっているとのことで、海外向けが非常に忙しいようである。	
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後、目立った案件の受注がない。	
	不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・中小企業向けオフィス仲介では、新規需要がない。アベノミクスの効果はまだ表れていない。	
	広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・広告の受注量は、消費税増税後も増税前に比べてほとんど変わっていない。	
	行政書士	受注量や販売量の動き	・貨物の動きが変わらない。	
		公認会計士	それ以外	・企業の3月期決算では利益が出ているようだが、収益性が回復したというよりは円安の恩典と思われる。また、中小企業の厳しい業績にも変化はなく、引き続きやや悪い状況には大きな変化はみられない。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・消費税増税から2か月を経て、高級品、耐久消費財を除く一般消費財には需要が戻ってきている。増税前の買い置きも1か月分程度に留まっていたようである。しかし、サラリーマン世帯や年金生活者では収入があまり増えない中で公共料金をはじめ各種生活物資が値上げとなり家計費を圧迫している。

	その他サービス業〔ソフト開発〕(社員)	受注量や販売量の動き	・製造業の客からは、案件の状況が悪いという事で当初予定よりも外部委託の発注が少なくなっている。
	その他非製造業〔ソフト開発〕(経営者)	取引先の様子	・今月も大きな変化はない。外注先の動きもまばらで良いところと悪いところが入り混じっている。競合他社においても大きな変動はない。
やや悪くなっている	印刷業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・消費税増税前には少し良かったが単なる駆け込み需要のようで、その反動が今月になって起きている。前年と比べると受注状況は良くない。
	窯業・土石製品製造業(社員)	取引先の様子	・取引先においては、特に部品加工関係の会社で急に受注量が減って困っているところが増えている。
	鉄鋼業(経営者)	受注量や販売量の動き	・消費税増税後の減少から販売数は回復していない。5、6月頃には回復するという希望的観測が広がっていた分、実需の冷え込みを感じる。
	電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・消費税増税後はパーラー業界での設備投資が減少し、それに伴って当社の売上も減少している。全体としては良くない状態である。
	輸送用機械器具製造業(総務経理担当)	受注量や販売量の動き	・国内向けの販売量はやや悪く海外向けは堅調に推移している。トータルで見れば、やや悪い状況である。
	輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動により輸送量は減少しているが、予想の範囲内に収まっている。
	輸送業(エリア担当)	受注量や販売量の動き	・貨物の動きが前年比マイナス2.4%と、前月よりも悪くなっている。
	輸送業(エリア担当)	受注量や販売量の動き	・3か月前は日々の荷物量が前年同期を上回っていたが、4月に入ると消費税増税の反動減のため前年を下回った。5月になりやや回復したが前年並みであり、3か月前のように前年を上回る事はなくっている。景気は上向いてはならず、横ばいないしやや下向きの状況である。
	金融業(企画担当)	取引先の様子	・株価や円相場の動きが停滞していることから個人投資家も動きづらい状況である。個人の資産効果も大きくはなく、少し前の状況と比べて消費に向かう資金が捻出できなくなっている。
悪くなっている	新聞販売店〔広告〕(店主)	受注量や販売量の動き	・いったん購読中止になった新聞契約の回復は非常に難しい。
雇用関連 (東海)	民間職業紹介機関(支社長)	求人数の動き	・新規求人数が増加している。
	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・企業の正社員採用に対する意欲は高く、有料職業紹介事業が引き続き堅調である。
	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・6月の賞与支給後の退職者が決まってきた事を背景に、後任要員の派遣依頼が増加しつつある。
	人材派遣会社(営業担当)	周辺企業の様子	・派遣スタッフの稼働率が高い水準で推移しており、堅調な状態を維持している。
	職業安定所(所長)	求職者数の動き	・新規求職者は前年同月比で17.6%の減少であり、管内の事業所からは応募者がなかなか来ないといった声がある。新規求人数(514件)も消費税増税の影響で3か月前の1,010件よりは落ち込んでいるが、都心部への通勤圏での求人が依然として好調であり、求人難となっている。
	職業安定所(職員)	採用者数の動き	・常に人手不足の医療介護分野に加えて建設関連や小売業関連でも人手不足感が出てきている。また、採用意欲は全産業においてみられるが、特に新規卒卒者を対象とした求人については、前年以上の好調さがうかがえる。
	民間職業紹介機関(営業担当)	求人数の動き	・中途採用市場における当地域での有効求人倍率は高い。特に即戦力のエンジニアを求める企業の採用活動は、大企業だけでなく中小企業まで拡大してきている。
	民間職業紹介機関(営業担当)	周辺企業の様子	・消費税増税の影響は当初の想定よりも小さく、中小企業の動きに積極性が感じられる。中小企業支援に関わる業務をしているが、専門家に支援を求める内容が前向きな案件が増加している。
変わらない	人材派遣会社(営業担当)	求人数の動き	・求人数には変化がなく落ち着いている。派遣スタッフの利用は、長期的な契約よりも期間限定での要望が多くなっている。
	人材派遣会社(支店長)	採用者数の動き	・採用の成約数は3か月前の103%となっている。求人数は3か月前に比べると58%と縮小しているが、前年比では104%となっており、ほぼ例年通りの動きとなっている。

	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・求人数は増加傾向で求職者数が減少傾向である事は実感するが、景気が上向きと感じるほどではない。
	アウトソーシング企業 (エリア担当)	雇用形態の様子	・消費税増税後、自動車販売台数の落ち込みはあるが、新型車種など3月までの受注残があるため、生産の現場では今のところあまり落ち込みは感じない。
	新聞社 [求人広告] (営業担当)	求人数の動き	・雇用の面ではあらゆる分野で二極化が表面化している。実態は平均では測れない状況となっている。
	新聞社 [求人広告] (営業担当)	求人数の動き	・例年と同様に5月中旬から正社員の求人数が減少傾向にある。パート、アルバイトの需要は安定的にある。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数は高い水準を継続しており、求人倍率も1.4倍を越す状況が続いている。ただし、製造業の求人はほとんど増えていないので、全体的には状況は変わらない。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・求人数は、3か月前と比べて横ばいである。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年比で横ばいである。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・4月の有効求人倍率は1.12倍で前月から下がってはいるが、新規求人数が前年同月比で18.3%増加するなど悪くなる状況ではないと考える。
	その他雇用 [広告代理店] (求人広告担当)	それ以外	・3か月前と状況は変わっていない。企業の業績も良くなってはいない。
やや悪くなっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ゴールデンウィーク中は派遣スタッフ利用があまりなく、特に最終日は雨天でさらに利用が減少している。ゴールデンウィーク明けの利用は例年並みとなっている。
悪くなっている	—	—	—